

◆ 平成27年度 活動報告シート ◆

団体名：埼玉の森林を考える会

代表者：会長 安井敏晃

URL :

1. 活動が必要とされた状況

シカによる森林被害の拡大や大径木の減少等から樹洞性の野生動物が減少しています。シカの生息実態調査や樹木保護並びに樹洞性野生動物の生息調査と保護を行い生物多様性に富んだ埼玉の森林や自然の保全を進める必要があります。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

（1）野鳥及び巣箱調査（4月～12月）

県民の森に設置した大型巣箱及び夏鳥用巣箱の利用状況調査及び野鳥の生息調査を実施しました。

（2）ナイトネイチャーツアーの実施（7月、8月 延20名参加）

（一社）埼玉県農林公社と共催した学習・観察を実施しました。

（3）森林におけるシカの影響調査（4月～12月 延45名参加）

ライトセンサスや区画法調査を行いました。

（4）野鳥ガイドの作成（4月～3月）

これまで3年間の県民の森内調査を踏まえ、県民が森林や野生動物に対して関心を深めてもらうためのガイドを作成しました。

3. 活動の成果

（1）野鳥及び巣箱調査

6箇所の巣箱がムササビに利用され、そのうち1か所では3年連続して繁殖場所として利用しました。また、カメラの記録から一時的に巣箱内にテン、モモンガ、ヤマネ、アオゲラ等の出入りが確認でき貴重な樹洞性動物の把握ができました。

通年で52種の野鳥を確認し、夏鳥等樹洞性鳥類は、昨年度設置した夏鳥用巣箱6個の今年度の利用はありませんでした。

（2）ナイトネイチャーツアーの実施

学習室で映像を見ながらシカの森林への影響や生息状況及び野生動物の生態学習後、車に分乗し、県民に森林と野生動物の理解を深めてもらいました。

（3）区画法調査の実施

シカ14～25頭（重複個体の可能性あり）を確認し、調査した面積76.62haでの生息密度は18～32頭/km²になりました。



生態学習状況

4. 今後に残された課題

野鳥及び巣箱調査では、想定された樹洞性野生動物を確認できましたが、キビタキ、オオルリなどの夏鳥の繁殖状況の把握が課題となっています。また、ニホンジカについては、日本各地と同様に埼玉県でも大きな問題になっており生息実態や被害対策を進める必要があります。

会での活動により知り得た情報を観察会や報告会を開催して多くの県民の皆様にはじめとする自然環境の保全の必要性を伝えたいと思います。



区画法調査事前打合せ